

再発見シリーズ第3弾

# 児玉を巡る 鎌倉街道の再発見

美里町～本庄市児玉町～神川町



金鑽神社 多宝塔

埼玉県北部地域振興センター本庄事務所

## 発行に当たって

---

古くからの街道沿いを歩くと、往時の面影を残す風景や思わぬ発見に出会えます。

当事務所では、これまで本庄児玉地域を広く紹介するため「中山道最大の宿本庄宿の再発見」、「藤岡道の再発見」を発行してきましたが、このほど第3弾として、「鎌倉街道の再発見」を作成しました。

本書では、鎌倉街道の歴史、見どころ、グルメスポットのほか、隠れたエピソードや住んでいる人の生の声も掲載しています。

冊子を片手に、鎌倉街道の小さな発見をお楽しみください。

埼玉県北部地域振興センター本庄事務所 所長 石川 勉



美里町に残る鎌倉街道跡

# 目次

---

|                             |                        |                 |           |
|-----------------------------|------------------------|-----------------|-----------|
| 鎌倉街道とは .....                | 2                      |                 |           |
| 第1章 美里町編 .....              | 3                      |                 |           |
| ★【武蔵七党と猪俣党】                 | ★猪俣の百八灯                | ★横関酒造           |           |
| ★雷電神社                       | ★【ブルーベリーのみち～美里】        |                 |           |
| ★ファームてんとうむし                 | ★遺跡の森総合公園              | ★真東寺            |           |
| ★松久駅                        | ★古道をたどる                | ★さらし井           | ★みか神社     |
| ★広木の一里塚榎跡                   |                        |                 |           |
| 第2章 本庄市児玉町編.....            | 20                     |                 |           |
| ★赤城乳業                       | ★玉蓮寺                   | ★八幡神社           | ★江戸時代の高札場 |
| ★パンとお菓子 マロン                 | ★児玉町旧配水塔               | ★筑紫本店           |           |
| ★田島屋旅館                      | ★塙保己一記念館               | ★【塙保己一】         |           |
| ★蕎麦と料理 ろ                    | ★雉岡城跡                  |                 |           |
| ★競進社模範蚕室                    | ★【競進社と木村九蔵】            |                 |           |
| ★塙保己一旧宅                     | ★龍清寺のカヤ                |                 |           |
| 第3章 神川町編.....               | 39                     |                 |           |
| ★熊野神社と立場                    | ★福島梨園                  | ★宮様が泊まった高田家     |           |
| ★雛市通り                       | ★安保氏館跡                 | ★有力者に委ねられた神社の管理 |           |
| ★産塚                         | ★稻荷神社と塚石               | ★阿保神社           |           |
| 番外編 上武鉄道廃線敷と金鑽神社・大光普照寺..... | 51                     |                 |           |
| ★丹荘駅                        | ★廃線敷やホームが残る～旧上武鉄道（日丹線） |                 |           |
| ★武蔵二ノ宮 金鑽神社                 | ★大光普照寺（金鑽大師・元三大師）      |                 |           |

## 鎌倉街道とは

鎌倉街道とは、鎌倉と地方を結ぶために開かれた道路の総称で、特に  
かみつみち なかつみち しもつみち  
上道、中道、下道が幹線道路として知られている。

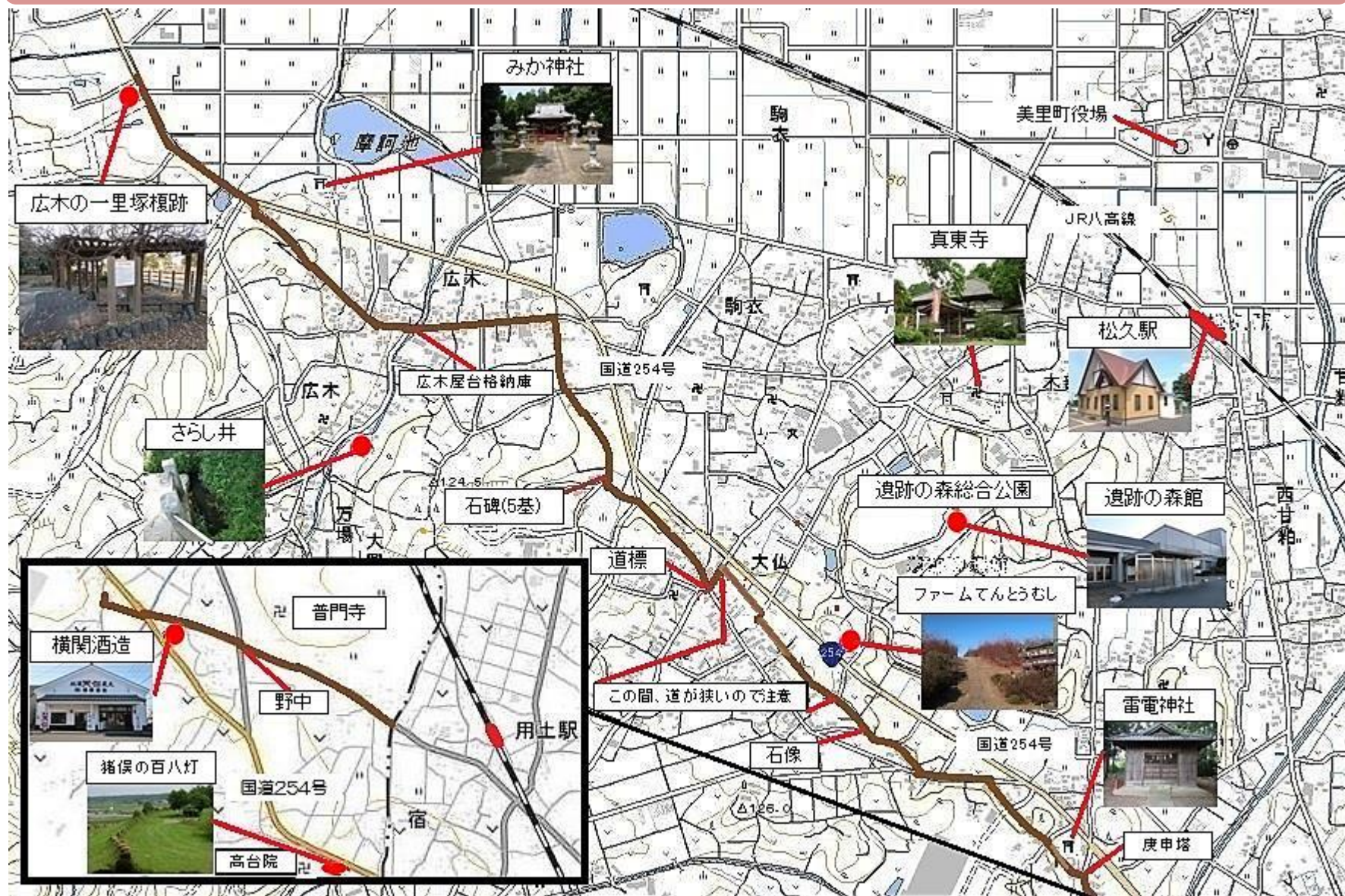
このうち、児玉地域を通過しているのは上道で、上野に拳兵した新田義貞が鎌倉攻めの際に通ったのはこの道である。

鎌倉時代以降も、江戸時代に中山道が整備されるまでは、人馬の往来や物資の輸送に大きな役割を担っていた。



— 鎌倉街道上道  
※ 実線が本書で紹介しているルートです。

# 第1章 美里町編



鎌倉街道は、現在は県道小前田児玉線と名をかえ、用土駅入口から 500 メートルほど北西の交差点の先から美里町に入る。



ここからしばらくはのどかな田園風景の中を進む。500 メートルほど行くと緩やかな登り坂となり、普門寺の前に出る。



普門寺からは下り坂となり野中の交差点に差し掛かる。



鎌倉街道はここを直進しているが、少し寄り道して武蔵七党の一つ猪俣党ゆかりの地を訪ねてみよう。

交差点を左折して南に進み、国道 254 号に合流したらまた左折し、しばらく行くと道路右側の丘に「み・さ・と」の刈込が見える。



この辺りが猪俣党の本拠地、美里町猪俣地区だ。

#### 【武蔵七党と猪俣党】

武蔵七党とは、平安時代末期～南北朝時代に武蔵国を中心に活躍した七つの同族的武士団の総称。諸説あるが、

- ◎横山党
- ◎猪俣党
- ◎村山党
- ◎西党
- ◎児玉党
- ◎丹党
- ◎野与党（◎私市党とも）

の七つの武士団をさすといわれている。

猪俣党は、横山党から分派してここ美里町猪俣を本拠地とし、一族には人見氏、男衾氏、甘粕氏、岡部氏、小前田氏などがいた。いずれも近隣の地名に名を残している。

一族の武将では、一の谷の戦いで活躍した猪俣小平六範綱と岡部六弥太忠澄が名を知られている。



「み・さ・と」の丘の手前、案内板に従って右折すると、400メートルほどで猪俣小平六範綱の墓のある高台院に着く。

## 【猪俣の百八灯】

高台院はその名のとおりに猪俣の集落を見渡す高台にある。



お寺自体は村はずれの小寺といった風情だが、ここは8月15日の夜に行われる百八灯行事でつとに有名だ。

これは、猪俣党の先祖の霊を慰めるための行事で、猪俣地区の若者が、笛、太鼓の拍子に合わせて、高台院から堂前山まで提灯行列を行い、その後、堂前山の尾根に築かれた百八基の塚に火を灯す。

夕闇に浮かび上がる提灯行列や点々と映える塚の灯が幻想的だ。



闇に浮かぶ108の灯

400年以上続く盆行事として、国の重要無形民俗文化財に指定されている。



堂前山は、先ほど見た「み・さ・と」の刈込がある山で、尾根上は小公園となっており、百八の塚はいつでも間近に見ることができる。



来た道を野中の交差点まで戻り、再び鎌倉街道をたどる。400メートルほど行くと左に横関酒造がある。

### 【横関酒造】



明治13年（1880年）創業の老舗で、店内には、酒造りの道具も展示されている。

地酒「<sup>てんじん</sup>天仁」は、脇を流れる<sup>てんじん</sup>天神川にちなんで命名したそうだが、「神を名にするのは恐れ多い（横関昭子さん）」ことから、仁の字にしたという。



奈良漬も自慢の逸品で、岡部産の瓜をはじめとした地場産の野菜を、自家製の酒粕で漬け込んだ自然食品である。お客さんの評判もよく「お酒と奈良漬が半々の割合」で売られているようだ。



横関酒造を出て、国道 254 号の交差点を直進し、細い道路を少し行くとセンターラインのある道路にあたる。ここを右折するとほどなくブロック塀の間に庚申塔が置いてある。



ここを左折した細い道が鎌倉街道だ。  
坂道を上り、みさと保育園の脇を過ぎると、右手に雷電神社がある。鎌倉街道は雷電神社の裏手に当たり、この坂道は雷坂と呼ばれている。

## 【雷電神社】

この神社は、坂上田村麻呂が東征のため当地に至ったところ激しい雷雨に遭遇し、これを鎮めるために雷神を祀ったのが始まりと伝えられる。

雷電神社は、埼玉県、群馬県に多く分布しており、この辺りも古くから雷の被害を被っていたのだろう。



雷電神社を過ぎて 250 メートルほど進むとセンターラインのある道路に突き当たる。ここを左折する。

150 メートルほど行くと青いトタンの家を挟んで道が二手に分かれるが、右手の細い道を進む。



150 メートルほど進むと、小さな石像がある。ここで二股に分かれるが、ここは直進（右側）する。



国道 254 号を右に見ながら 100 メートルほど進むと、石垣の上に生垣のある家の庭先に入るような形で道が細くなる。



この辺りで少々寄り道。石垣のところを右折し、松久駅の辺りまで足を延ばしてみる。

100メートル足らずで国道254号に出るが、この辺りはブルーベリーの栽培が盛んだ。

### 【ブルーベリーのまち～美里】

美里町は国内最大規模の栽培面積を誇る「ブルーベリーのまち」で、町のゆるキャラ「ミムリン」は、ブルーベリーを食べ過ぎて？体が紫色になったといわれている。



町内には約20戸の観光農園が点在している。栽培品種が多く、収穫期間が長いため6月上旬から8月下旬までいろいろな甘味・酸味を楽しむことができる。

### 【ファームてんとうむし】

国道を横切ると左手の丘がブルーベリー農園の一つ「ファームてんとうむし」だ。丘全体にブルーベリーが植栽されている。チップの敷き詰められた坂を上ったところにあずまやがあり、ここからの眺望もなかなかのもの。



〈あまり知られていないが、品種ごとに色づきの異なるブルーベリーの紅葉も楽しむことができる。〉

平成 29 年 9 月にはフィンランド駐日大使もここを訪れている。  
フィンランドではブルーベリーの原種であるビルベリーが森などに自生し、家庭の食卓でなじみのある食材となっているそうだ。



〈収穫したブルーベリー〉

### 【遺跡の森総合公園】

農園を出て左に進む、300メートルほどで「遺跡の森総合公園」のグラウンドや照明が見えてくる。

「遺跡の森」の名の由来は、ここで縄文時代～弥生時代の埋蔵品が発掘されたため。グラウンドや体育館のほか、埋蔵品を展示する「遺跡の森館」などの文化施設も整備されている。



遺跡の森館

常設展示室



地図を頼りに、北東 800 メートルほどのところにある真東寺を訪ねる。

## 【～美里で四国八十八か所巡り～真東寺】

真東寺は、四国八十八か所霊場のお砂踏みのできる寺として知られている。境内に入るとまず、屋根の上に弘法大師立像が乗った曼荼羅塔が目に入る。



順路に沿って本堂の裏山に入ると、四国八十八か所霊場のミニチュアが起伏を生かして巧みに配置されている。

それぞれの堂内には本尊の写しと各寺院からいただいた境内の砂が敷かれており、ここにお参りすることで四国霊場を巡拝したのと同じ霊験・功德が得られるということだ。

全部見て回ると一時間近くかかるだろうが、高低差がありかなりの運動量であった。

真東寺を出て八高線の松久駅に向かう。ちょっとわかりにくい道だが、約700メートル。歩いて10分ほどだ。

松久駅は、埼玉県内では珍しい無人駅で、ここを走る列車はディーゼル車。線路には送電線がない。

## 【八高線松久駅】

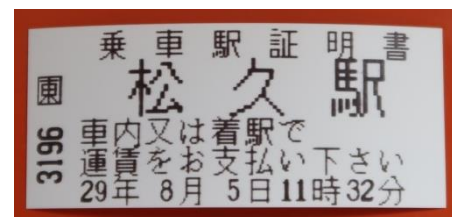
正面から見ると小さいが結構りっぱな駅舎に見える。



実はこれは美里町駅前情報館という町の施設で、奥の小さく白く見えるのが駅舎だ。

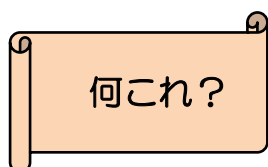
松久駅は無人駅。Suica（スイカ）で入出場できるが、Suica を持っていない人はどうするのか？

Suica の入場機の隣には「乗車駅証明書発行機」というオレンジ色のボックスがあり、右上の発券ボタンを押すと乗車駅証明書が出てくる。これを車内か降車駅で駅員に提出して運賃を支払うことになる。



北海道の代わりにロケに使われることもあるという風景

駅の向かいの店先が無人の野菜販売所となっており、ミニトマト、ナス、キュウリなどが1袋100円で売られていた。安い！後日、再び訪れたら、小玉スイカが1個200円で売られていた。



|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| <b>駅前駐車場</b>                        |   |
| <b>1日 300円</b>                      | <b>無断駐車厳禁</b><br><small>無断駐車厳禁!万一無断駐車を発見した場合、相当の駐車料金を申受けます。<br/>駐車場内では、お子様を遊ばせないよう保護者の方は、ご注意、ご指導下さい。<br/>駐車場内での、盗難及び損傷等は、一切責任を負いませんので、各自自主管理を心掛けて下さい。</small> |
| <b>年契約</b>                          |   |
| <b>月 1,000円</b><br><b>年 12,000円</b> |   |

駅前の民間駐車場にこんな看板を見つけた。  
1日300円なのに、月1,000円!?



松久駅から石垣の家のところまで戻り、鎌倉街道を巡る旅を再開する。

### 【古道をたどる】

---

石垣の家の庭先に入るような道は、車は入れない。道路というよりも古道跡をたどる道筋になる。



要所には美里町教育委員会が立てた案内板があるが、当然舗装されていないので、荒天時には覚悟が必要である。



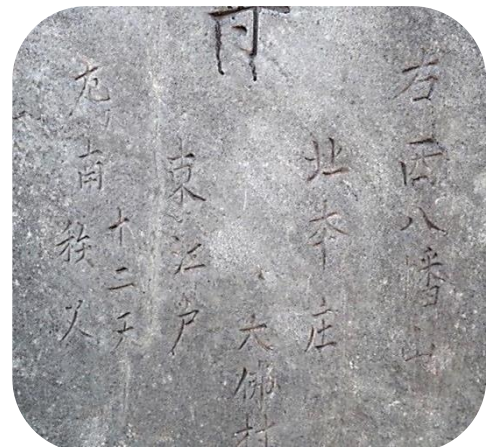
丘を登り、藪をかき分け、畦道を抜け、500メートルほど行くと車の往来のある通りに出る。



ここから先は個人宅となり、鎌倉街道は少しの間途絶えてしまう。

仕方なく通りを左折すると、すぐに交差点となる。右に福嶋屋の看板、向かいには「六道能化地蔵尊道標」がある。

この道標は、延享2年（1745年）のもので、「西 八幡山・北 本庄・東 江戸・南 十二天 秩父」と記してある。



400メートルほど行ったところに石碑が5基置かれていた。ここで道は二股に分かれるが、狭いほうの道が鎌倉街道。



500メートルほど進むと小さな交差点に差しかかる。鎌倉街道はここを直進するルートと左折するルートとが伝えられているが、直進ルートは国道より先が途絶えているため左折する。



広木地区の家並みの中を進むと、左手に広木屋台格納庫がある。毎年7月下旬の八坂祭りには屋台を引き回し、地元の若者たちが屋台囃子を響かせる。



この先、天王橋を渡ったところで左折し、万葉の遺跡を訪ねてみよう。  
志戸川沿いに300メートルほど進むと、左側、石橋を渡ったところに県指定文化財の「さらし井」がある。

### 【～万葉の里～さらし井】

---

絶えず流れる泉水があり、その水で衣を打ち、布や糸をさらしたことからこの名がついた。

万葉集巻九の「三栗の中に向へる曝井の絶えず通はんそこに妻もが」は、この「さらし井」を詠んだものといわれている。炊事、洗濯に集う女性たちの共同作業場だったと考えられている。



来た道を天王橋まで戻り、鎌倉街道を進む。

家並が途切れたあたりで右側にみか神社の常夜灯がある。真北に伸びる参道は 250 メートルもあり、社殿は国道 254 号の先にある。



### 【みか神社】

---

みか神社は、延喜式神明帳に登載されている古い社で江戸時代には正一位を授けられた。

「みか」とは酒を造る大きな甕のことで、以前は秋の例祭に新米でどぶろくを二瓶造り、神前に奉納して、その一つは翌年春の参拝者に分け与え、もう一つは秋の例祭のときに新調したものと交換していたという。



鎌倉街道に戻り 300 メートルほど進むと国道 254 号に出る。国道沿いを西に進むと、やがて本庄市境を示す標識が見える。この標識の手前があるのが広木の一里塚榎跡だ。

一里塚とは、江戸時代、街道沿いに距離の目安として整備されたもので、一里ごとに5間四方の塚が築かれ、頂上には榎が植えられていた。

この道は、江戸時代中山道の脇往還として利用されていたため、一里塚が設けられたのかもしれない。

### 【広木の一里塚榎跡】

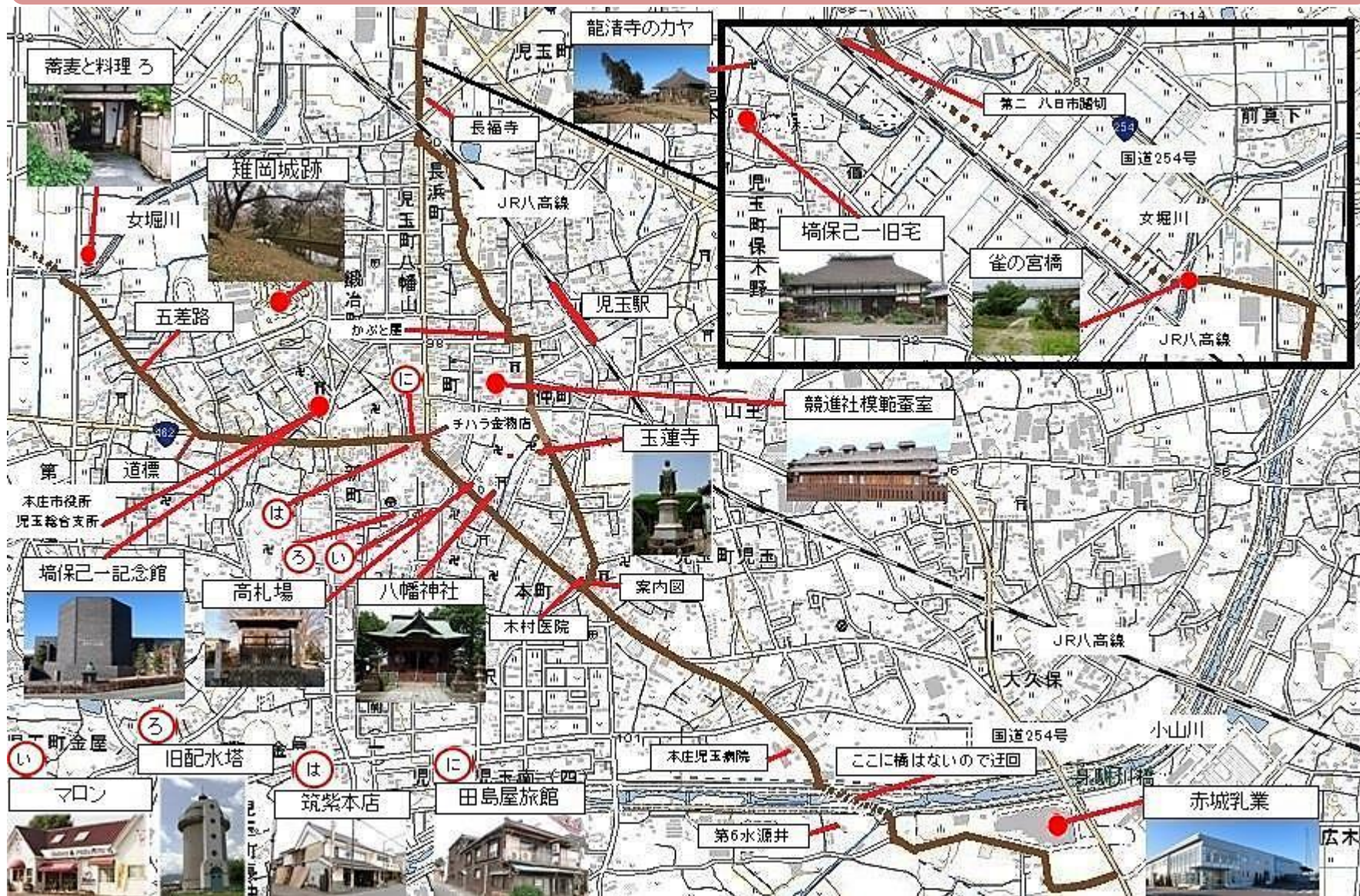
かつては、高さ15メートルで樹齢400年の榎があったと伝えられる。その後、榎は枯れ、今は平成一里塚公園という小さな公園となっている。

駐車場もあり、ドライバーの休憩スポットとして利用されているようだ。一里塚は昔も今も旅人のポケットパークである。



鎌倉街道は、このポケットパークのところを左折し、国道から離れる。道路の反対側に広がる工場は、ガリガリ君でおなじみの「赤城乳業本庄千本桜工場」だ。

## 第2章 本庄市児玉町編



## 【赤城乳業本庄千本さくら『5S』工場】

長い名前だが、工場の横を流れる小山川の桜の名所「千本桜」と「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の頭文字のSをとって名付けられた。

日本のアイス生産量の約10パーセントを生産できる能力を持つ国内最大規模のアイス工場だ。



予約をすれば、ガリガリ君やソフトクリームの製造工程が見学できる。見学コースには、赤城乳業がこれまでに発売してきたアイスのパッケージやくじ付きアイスで当たりが出たときの景品なども展示されている。見学終了後には、アイスを試食できるコーナーもある。



歴代のアイスのパッケージ



クレーンゲームでキャッチしたアイスは試食できる。

なお、見学するには申込みが必要で、見学希望月の3か月前の1日から2か月前の20日までが申込み期間（但し抽選）。

赤城乳業を出た後は、平成一里塚公園との間の道を西に向かう。  
800メートルほど行き、道が小山川に近づく「第6水源井」の辺りが昔の渡河地点だったらしい。

小山川を渡ると、本庄市児玉町に入る。  
本庄児玉病院の東を通り、しばらく行くと、県道に合流する。県道を300メートルほど進んだ木村医院の手前の小道が「鎌倉街道上道」だ。



鎌倉街道案内板

右折するとすぐ本町屋台収蔵庫の横に鎌倉街道の案内図がある。

なお、直進する県道は「鎌倉街道上杉道」と呼ばれ、室町時代に、関東管領山内上杉氏の居城のあった平井城（藤岡市）方面に向かう道である。

上道は後で回ることとして、まずはこの上杉道を町中めざして進んでみる。  
250メートルほど先、右側に大きな石碑と石の門がある。玉蓮寺入口だ。

## 【玉蓮寺】

玉蓮寺は、日蓮聖人に帰依した児玉党の児玉時国が自邸の内に草庵を建てたのが始まりとされる。

日蓮が鎌倉幕府を批判した罪で佐渡に流刑になった際、鎌倉街道上道が護送ルートとなったが、行く途中と赦免されて鎌倉に戻る途中、それぞれ時国の屋敷に泊まったと伝えられている。





## 【八幡神社（東石清水八幡神社）】

玉蓮寺を出るとすぐ右側に石垣と鳥居がある。鳥居の先には赤い柱の立派な門も見える。児玉町の総鎮守八幡神社だ。この門は隨身門と呼ばれ、中には右大臣と左大臣の木造が安置されている。



門をくぐった先にある社殿は、享保7年（1722年）の再建で緻密な彫刻が華麗である。社伝によると、源義家が奥州征伐に向かう途中、当地に斎場を設けて戦勝を祈願し、平定後再び立ち寄って、八幡宮を勧請したのが始まりだという。



11月3日、山車や屋台、神馬行列などが巡行する「こだま秋まつり」は、この八幡神社のお祭りである。



## 【江戸時代の高札場】

---

境内の西端、道路沿いにある高札場は、もとは道路上にあったものを交通の支障になるということで、現在地に移したものである。江戸、明治…と時代が下るに連れ、交通事情が変化したことを知る資料ともいえるだろう。



ここでちょっと寄り道。八幡神社を出てすぐの細い道を左折すると、赤い三角屋根のかわいい店が見えてくる。「パンとお菓子 マロン」だ。

## 【パンとお菓子 マロン】

---



製菓部の黛百合子さん（田端泰弘社長の娘さん）に話を伺った。

「戦後間もない昭和 26 年（1951 年）に、祖父が「児玉製パン」を開業。わずか4坪の店舗に木製のショーケース1つ、あんぱんとコッペパンだけで始めた。昭和 38 年に店名を「マロン」に改名。『おいしくて、安全なパンを皆様に届けたい』という創業者の思いは、今も社員に受け継がれている。」



創業当時の配送車



店名を「マロン」に改名した当時

商品は、すべて地元児玉産の新鮮赤たまごを使用。低温でじっくりと生地を寝かせて発酵させ、手間暇かけて焼き上げた風味豊かなパンは約 80 種類。

なかでも、注文に応じてコッペパンに各種のクリームやジャム、あんこなどを付けてもらえる「付け食コーナー」と地元の新鮮野菜や生ハム、チーズなどをサンドする「フレッシュサンドイッチコーナー」が人気。

「付け食」ではシングル、2種類の味が味わえるハーフ&ハーフ（片面に半分ずつ）、ミックス（両面に1種類ずつ）が選べる。

付け食コーナー



フレッシュサンドイッチコーナー



〈プレーン、黒糖など5種類から選べるコッペパン〉



〈これが付け食のハーフ&ハーフ〉

マロンには、本庄市のマスコット「はにぽん」のクッキーや児玉のシンボルをイメージしたケーキ「配水塔のある景色」など、ご当地商品もあるが、その児玉町旧配水塔は、マロンの手前を右折した児玉商工会館の先にある。

### 【児玉町旧配水塔】



扇状地地形のため生活用水が潤沢でなかった児玉町の市街地域に水を供給するため、昭和3年（1928年）に着工し、6年に竣工した近代水道施設の配水施設。

構造は、隣接地に配置された地下の集水池から塔1階に設置されたポンプによって配水塔の上方の貯水槽に揚水し、自然流下の方式で各戸へ配水した。

- ・塔の高さ 17.7メートル
- ・塔の内径 6.4メートル
- ・水槽容量 130キロリットル
- ・一日最大給水量 500立法メートル
- ・給水人口 5,000人

平成12年に「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として国登録有形文化財に登録された。

旧配水塔から来た道に戻り、上杉道を進む。少し行くと大きく右にカーブする。いわゆる鉤の手だ。

その先仲町交差点の角にある、チハラ金物店の茅原博さんに近所の由緒ある建物を案内してもらった。茅原さんは本庄市観光協会児玉支部長だ。

### 【筑紫本店】

チハラ金物店の並びの筑紫本店（酒屋）は旧くからの商家だという。5代目の筑紫善一朗さんに話を聞いた。

「元々は近江の出で、金貸しをやっていた。その後は醤油屋。そして酒造りを始めたが、その頃は酒粕を売ると従業員の給料を払え、酒の材料は、地代（小作料）で買えるほどだった。旧配水塔は元は筑紫家の土地で、その辺りまで敷地が広がっていた」という。



母屋の横には立派な蔵が

### 【田島屋旅館】

筑紫本店の向かいには古い木造の旅館がある。田島屋旅館だ。表は2階建だが、奥は3階建になっており、その後ろには離れ、蔵がある。

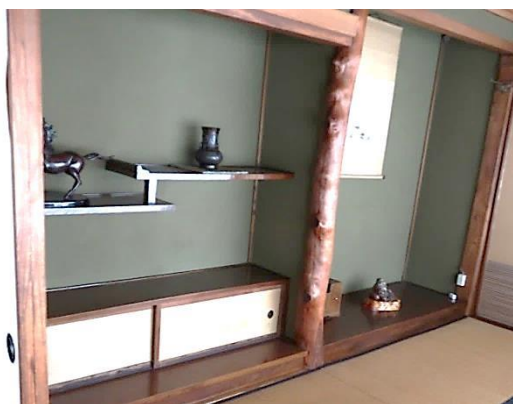


玄関に入ると大きな柱時計が迎えてくれた。

3代目の田島康子さんに旅館の中を案内してもらった。「今の建物ができたのは 100 年位前で、2階と3階が客室になっている。2階は7室、3階には3室ある。3階には、三島由紀夫や吉田健一、中村光夫が泊まった。特に吉田健一はここを気に入ったらしく何回か宿泊している。」吉田健一は随筆家で、時の総理大臣吉田茂の息子である。

茅原さんによると、「3階は特別なお客さんが泊まる部屋で、子どもはめったに上がらせてもらえなかった。私もここに上がるのは、何十年ぶりだろうか。」とのこと。

3階客室の書院造の違い棚



宿泊者のサイン



田島さんの話では、「三島由紀夫が塙保己一の旧宅を訪れる際、案内のため母親が旅館からタクシーで一緒に行った。まだ4歳だった私は、三島由紀夫にだっこされて行った。」とのことである。

田島さんには、宿泊した文化人のサインとともに、吉田健一が児玉を紹介したエッセイ「ある田舎町の魅力」が掲載された随筆集「酒に呑まれた頭」（昭和30年発行）を見せていただいた。



2階の洗面所の小石をちりばめたような表面の窓ガラスが美しい。

田島屋旅館から 200 メートルほど西へ行くと、交差点に差しかかる。右折し、坂を上がると本庄市役所児玉総合支所だ。ここには郷土の偉人塙保己一の記念館が併設されている。

### 【塙保己一記念館】

雉岡城跡にあったものを、平成 27 年 7 月にリニューアルし、移転した。映像や資料で塙保己一の生涯を知ることができる。江戸に出る際、母が縫って持たせてくれた巾着などの遺品も展示されている。



巾着



開館時間 午前9時～午後4時30分  
休館日 月曜日（休日の場合は翌日）  
年末年始

### 【塙保己一】



江戸時代の中頃の延享 3 年(1746 年)に武蔵国児玉郡保木野村(本庄市児玉町保木野)に生まれ、7歳の時に病気のために失明した。15歳になって江戸に出て当道座(盲人の組織)に入り、検校雨富須賀一に弟子入りした。保己一は当道座での修業を積み苦勞を重ねて立身し、晩年には当道座の最高位である総検校に昇進した。

保己一は国学者としても著名であり「群書類従」や「続群書類従」の編さん、さらには和学講談所の設立及び運営、当道座の改革など多大な功績を残した。

交差点まで戻って先を進む。

300メートルほど行くとラーメン店の手前で、右手に分かれる細い道があるが、この狭いほうの通りが上杉道である。



分岐点には小さな石の道標があり、「本庄町及寄居町ニ至ル」と「群馬縣懸石町ニ至ル」の二方向が表示されている。

住宅地の中の狭い通りを進む。道路上に庚申塔があつたりして、ここが街道だったことを思い起こさせる。ちょっと交通の支障になっているような気が……。



途中五差路があるが、広い通りを右折すると雉岡城跡に至る。直進すると正面に田園風景が広がったところで車道（県道秩父児玉線）に出る。上杉道は、車道の先、女堀川のもとで途絶えてしまう。

ここで、ちょっと一休み。

車道を右折し、女堀川の橋を渡った先に、木々に囲まれた落ち着いたたたずまいの建物がある。「蕎麦と料理 ろ」だ。



## 【蕎麦と料理 ろ】

ちょっとした隠れ家のような。特に看板も出ていない。

玄関



中庭



昼に訪れると、洋楽が流れる古民家風の店内では女性グループ、初老の夫婦などさまざまな年代の客がくつろぎながら食事をしていた。



セットメニュー「平日のお昼のおすすめ料理」は、前菜盛り合わせ、サラダ、蕎麦など5品が楽しめる。

蕎麦は細くのど越しがよく、しっかりしたコシ。

甘味（パウンドケーキ）はこれまで味わったことがない風味。

オカラが入っているのかなと思いき、帰り際にお店の方に伺うと、蕎麦粉で作った「蕎麦パウンド」とのこと。

美味しい蕎麦と同様、また味わってみたい一品だ。

「ろ」で一休みしたら、来た道に戻り、五差路を左折して雉岡城をめざす。

## 【雉岡城（八幡山城）跡】

---

雉岡城は、上杉道の終着地上州平井城と同様、戦国時代初期に関東管領山内上杉氏が築いた城で、上杉道は雉岡城と平井城を結ぶ連絡道ととらえることができる。

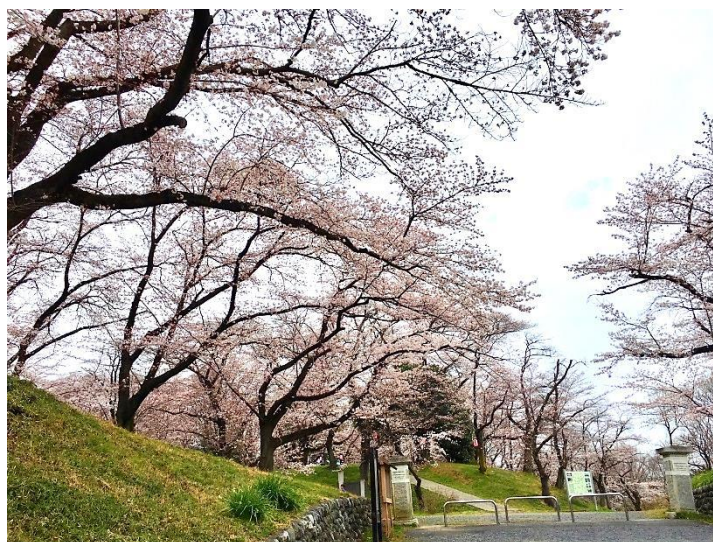
東側には鎌倉街道上道があり、交通の要衝を抑える城であった。

山内上杉氏が没落した後は、北条氏の支配するところとなり、関東覇権を争う武田信玄や山内上杉氏を継いだ上杉謙信との攻防の場となった。

やがて徳川家康が関東に入りその支配下となったが、関ヶ原の合戦後に廃城となった。



現在、城山公園として整備された一角には堀や土塁の遺構が残り、春には300本のソメイヨシノが城跡一体を覆うように咲き誇る。



さて、雉岡城を跡にして、鎌倉街道上道に戻ろう。ここから上道の分岐点木村医院の先までは1キロ余り、歩いて15分くらいだ。

分岐点まで戻ったら、鎌倉街道上道を進む。車一台やっと通れるほどの狭い通りを進み、玉蓮寺の横を過ぎると左手に競進社模範蚕室が見えてくる。

### 【競進社模範蚕室】

---

競進社模範蚕室は、明治時代に競進社社長木村九蔵が建てた、養蚕施設のモデルルーム。切妻作り棧瓦葺き平屋建てで屋根の上に4基の高窓を乗せ、一目で養蚕関係の建物であることがわかる。

近年は養蚕の衰退とともに養蚕家屋も少なくなっている。絹産業遺産として極めて貴重な建築物だ。（県指定文化財）



開館時間 午前9時～午後4時30分  
休館日 月曜日（休日の場合は翌日）  
年未年始



明治時代の競進社蚕業学校

## 【競進社と木村九蔵】

木村九蔵は弘化2年（1845年）に上野国緑野郡高山村（現藤岡市高山）の旧家高山寅三の五男として生まれた（幼名巳之助）。元治元年（1864年）に児玉郡新宿村（現神川町新宿）の木村弥次右衛門の娘しまと結婚し、慶応3年（1867年）に自立して名を木村九蔵と改めた。

少年の頃から養蚕に興味を持っていた九蔵は、養蚕改良に没頭し、火力を用いて保温・防湿することにより蚕病を防止できることを発見して、新しい飼育法である「一派温暖育」を考案した。

明治10年（1877年）有志と養蚕改良競進組を結成し、さらに組合員の増加に対応するため、明治17年（1884年）に組織を拡大して競進社に改組し、児玉町に事務所と伝習所を開設した。

明治27年（1894年）には伝習所地内に一派温暖育飼育法に適した蚕室を設計・建築し、この蚕室は後に模範蚕室と呼ばれるようになった。この蚕室と飼育法は、全国から集まり学んだ卒業生により各地に伝えられ、養蚕業の発展に大きく貢献した。

明治30年（1897年）九蔵は、実技教育にとどまらず学科教育を取り入れた本格的な蚕業講究所を設立した。講究所は、明治32年（1899年）には蚕業学校となり、その後、幾多の変遷を経て、現在の県立児玉白楊高等学校に至っている。



競進社模範蚕室を出で、鎌倉街道上道を進む。駅前通りに突き当たったら左折し、かぶと屋の石造の蔵の手前を右折する。



蔵の先を斜め左に入る小道が鎌倉街道だ。狭い通りで住宅の塀などもあり、車が入ってきたらよけられないような箇所もある。

その後住宅が点在する通りを進むと堤に出る。この先は河川ではなく、堤の上を八高線が走っている。鎌倉街道はこれを突き抜けていたが、ここは堤に沿って迂回するしかない。



県道に出たら、ガード下を潜り、長福寺の西側を北に進む。



やがて、国道 254 号の交差点に至るが、この交差点の直前を左折する。

カインズホームの南を進むと原野のようなところに出る。道路も草が生えた砂利道である。少し心細くなってきたところで雀の宮橋という小さな橋に出る。川は女堀川で、すぐ先には跨線橋が上空を横切る。



この橋から先は神川町に入る。街道跡は農地となっており、迂回して八高線沿いの道を進む。金鑽川を越えたところで右折すると街道は復活するが、ここは線路沿いを直進して塙保己一の旧宅をめざす。



第二八日市踏切を渡る。

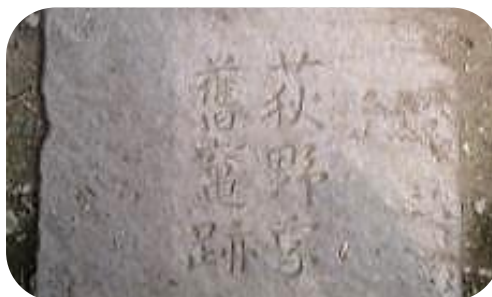
## 【塙保己一旧宅】

八高線を渡り、300mほど行くと茅葺（かやぶき）入母屋造（いりもやぶくり）の家が見えてくる。塙保己一の生家だ。

今も保己一が出た荻野家の子孫がこの家に住んでいる。



竈跡を記した石



主の荻野悦一さんに話を聞いた。

「保己一の弟がこの家を継いだ。元々は、歌人の家系と聞いている。この家は300年は経っており、以前は、養蚕をやっていた。

元はもっと前（南）にあったが、私が6、7才の時に曳家（ひきや）して今の場所まで動かした。曳家する前の竈の位置を記した石が玄関の前にある。国指定史跡になっていて改築できないし、維持していくのも大変だ。」と話してくれた。

文化財の家を維持し、伝えていくのは大変なことである。

## 【龍清寺のカヤ】

---

塙保己一旧宅のすぐ北に、保己一が子供の頃よく学び、そしてよく遊んだ龍清寺がある。



この寺ではカヤの大木が目进行く。斜めに伸びている樹形が龍が飛び立つ様に見えることから、「飛龍のカヤ」と呼ばれている。

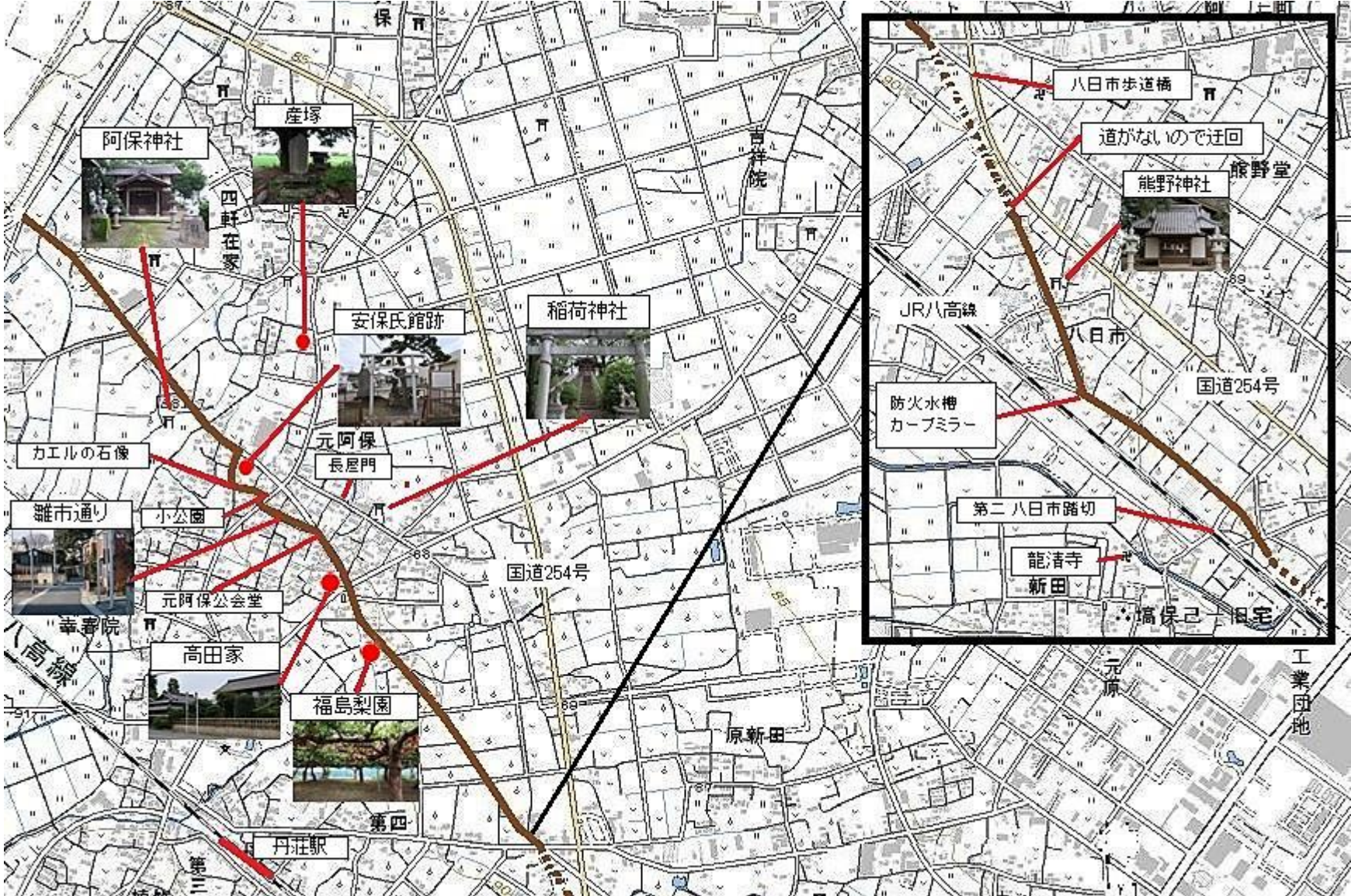
樹高約 14 メートルで、本庄市指定天然記念物となっている。

なお、龍清寺の南側、保己一旧宅に隣接した塙保己一公園には、保己一の墓所と百年祭記念碑がある。





### 第3章 神川町編



龍清寺を出て、来た道に戻る。八高線を越えて最初の十字路を左折。



畑の中を 450 メートルほど進むと、左に防火水槽とカーブミラーがある。鎌倉街道はここで二手に分かれる。



直進する道は、神川町役場の南を通り、肥土で神流川を渡る上道の本道とされているが、土地改良事業などでその痕跡はほとんど残っていない。

ここはカーブミラーを右折し、元阿保を通して藤岡に抜けるもう一方の経路をたどることとする。

### 【熊野神社と立場】

---

200 メートルほど行くと熊野神社の前に出る。



ここで交差する道は、かつての本庄鬼石往還で、ここには立場があった。立場とは、茶屋などがあった休憩場所で、熊野神社の門前には2軒の茶屋があったという。

熊野神社を右にみて直進すると 250 メートルほどで農道に突き当たる。ここから先鎌倉街道は田畑に姿を変え、しばらくはその痕跡がうかがえない。



ここは迂回するしかなく、右折して国道 254 号に出る。しばらく進み、歩道橋のある八日市交差点を左折する。



この通りは国道 254 号の旧道（以下旧国道）だが、次の信号から先は再び鎌倉街道と重る。



梨畑が点在する田園地帯をひたすら西に向かう。八日市交差点から 700 メートルほど行くと、左右に梨園の看板が目につくようになる。そのうちの 1 軒で、近所の梨園から「<sup>な</sup>し<sup>や</sup>ん<sup>ち</sup>家」と呼ばれている福島梨園に寄ってみた。

## 【福島梨園】

梨屋仲間から「梨屋さん」と呼ばれるのも珍しいが、いわれを主の福島勇さんに聞いてみた。



「うちがこの辺りで一番最初に梨を始めた元祖だといわれている。もともとは旅人相手に宿屋をやっていたが、曾御爺さんのときに、お客さんが植えてみればと梨の木を置いていって、それを植えたのがそもそもの始まり。130年も前のことだが、今でもその木は残っている。」

ということで、その木を見せていただいた。  
元祖梨の木は、丈は低いが幹はがっしり太く四方に枝を張り出していた。



新しい品種を接ぎ木しているということで、幸水が実っていたが、130年前の木から生まれた梨はどんな味がするのだろうか。一度味わってみたいものだ。

福島梨園を出て、200メートルほど進むと県道と交差する。

## 【宮様が泊まった高田家】

この交差点に、2階に手すりを張り出した出梁造りの家がある。高田家だ。



玄関から土間に入ると、風通しを良くするためかかなり床が高い。以前は養蚕農家だったということで、2階は蚕室として使われていたという。現在は、梨園を営んでいる主の高田英夫さんに話を聞いた。

「この家はそんなに古くはなく築67年。離れのほうが歴史があり、昭和9年（1934年）の陸軍大演習のときに秩父宮殿下が宿泊した。本当はほかに泊まるはずだったが、そばを通った際に新築したばかりの離れを気に入り、ここに宿泊したそうだ。それ以来、宮様が泊まった高田といわれるようになり、悪さができなくなった。」と笑う。

母屋



母屋の前には趣のある庭園と離れがあり、離れには秩父宮ゆかりの品の写真が保管してあった。



離れ



秩父宮御下賜品の写真

高田家から 100 メートルほど進むと元阿保公会堂の先、斜め左に入る道がある。車一台通れる程度の細い道だがこれが鎌倉街道である。



### 【雛市通り】

この分岐点から次の通りに突き当たるまでの 150 メートルほどはかつて「雛市通り」と呼ばれていた。

30 年ほど前までは、2月末ここにひな人形の露店市が立ち、やがて農具や植木などの店も出るようになって、かなりの人手でにぎわったという。



昔の雛市の様子



現在の雛市通り

通りに突き当たった右斜め前方に、周りを道路に囲まれた三角形の土地がある。以前は火の見やぐらがあり、その傍らに一本松と腰かけ石があった。旅人はこの石に腰をおろし疲れをいやしたという。

現在は、サークル状にレンガを敷き詰めた小公園となっており、腰かけ石があった場所にはベンチが置かれている。



小公園を左に入ると、道端にはきれいな水路があり、板塀や蔵が残る宿場町の雰囲気を感じさせる通りになる。

100メートルほど進むと、左側に変わったものが……。



石で造った大きなガマガエルのようなのだが…、背中に子ガエルが5匹乗っている。何かの目印だろうか？

カエルの石像のところを右折し、少し行くと再び旧国道に戻る。この合流点には、松が植えられ、小さな社と安部氏館跡の案内板がある。

### 【安部氏館跡】

---

安部氏は、武蔵七党の一つ「丹党」の一族で、鎌倉幕府の有力な御家人安部実光の時代からこの地を治め、広大な館を構えていた。





〈館跡の航空写真〉

赤で囲った線内が館の範囲。手前が北。

館跡は道路の向かい側にあるサンライン倉庫を中心に 300 メートル四方とされ、発掘調査によって井戸の遺構や堀の一部などが確認されている。

先ほどの三角形の小公園から続く通りは外周、道端の水路は外堀と考えられている。

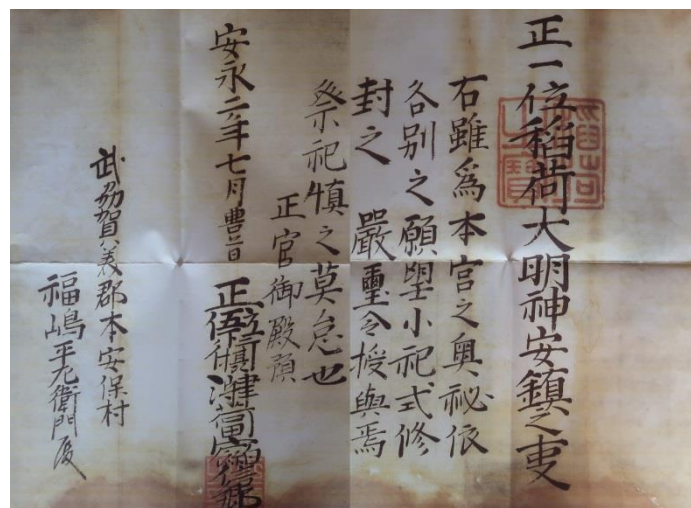
この辺りの歴史に詳しい阿保神社宮司の茂木賢さんに尋ねると、

「館跡周辺は開発が進み、残っているのは十二天堀と呼ばれる外堀ぐらいである。今はあまり鎌倉街道という意識はないが、以前は葬儀の際、回り道になっても昔からの街道を通る習わしがあった」と話してくれた。

### 【有力者に委ねられた神社の管理】

その茂木家は 400 年ほど前から館跡の中心部に居を構える旧家で、江戸時代から阿保神社（当時は正一位「六所大明神」）の管理を任されていた。

ちなみに、稲荷神社は福島家、諏訪神社は塩川家というように、元阿保地区の神社の管理は地域の有力者に委ねられていたようだ。





茂木さんに、安館周辺の史跡を案内していただいた。  
安館跡の案内板を右折、旧国道を東に戻り、最初の信号を左折する。  
北の方向に400メートルほど進むと左側に小高い塚がある。

### 【産塚（うぶづか）】



この塚は産塚と呼ばれ、小さな祠が祀られているが、安館氏にまつわる悲しい伝説が伝えられている。

その昔、安館氏が敵に館を急襲されたことがあった。そのとき身重だった側室は捕えられ、この塚まで連行され、生き埋めにされたという。

しばらくすると、この塚の辺りに幽霊が出るという噂が立つようになった。その幽霊は赤子を抱きながら「この子にお乳をやらしてもらえませんか」と人に頼むのだそうである。



近くの人々は、これはきっと生き埋めにされた側室に違いない。ふびんなことだと思い、塚に産八幡様を祀り側室と赤子の霊を慰めたという。それ以来幽霊は出なくなったということだ。

産塚から来た道に戻り、旧国道の交差点に着く直前の道を左折する。  
ここも古くからの通りで、通りの左側には洋風の蔵と長屋門があり、「福島大尽」と呼ばれた福島家や勤王の志士で、徳川慶喜に恭順を勧めた塩川広平の生地などがある。



通りに入って 200 メートルほどで、左側に鳥居と小高い塚が見えてくる。



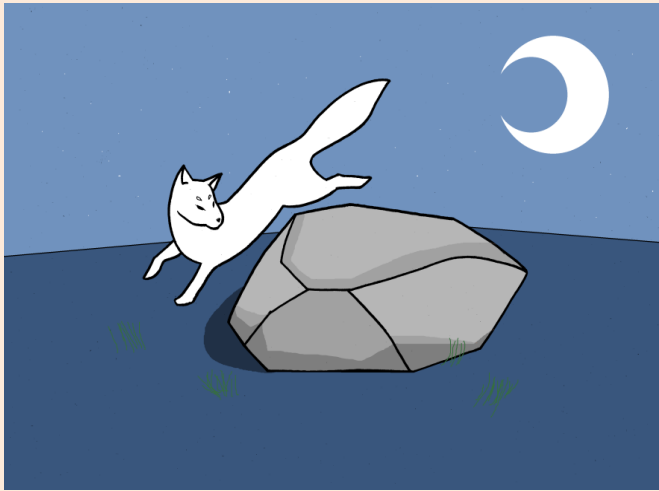
### 【稲荷神社と塚石】

---

この塚は古墳で、その頂には稲荷神社が祀られているが、その社の横に大きな石がある。この石は塚石と呼ばれ、こんな伝えがある。



あるとき、この塚を崩すことになり、村人達が塚の上の石を動かすことになった。なにしろ大きな石なので、やっと塚の中ほどまで引きずりおろしたが、それ以上はどうしても動かない。



その後、夜になると狐が塚の周りを悲しそうに鳴いて走り回る姿を目にするようになった。

村人たちは「これは稲荷様が悲しんでいるに違いない」と思い、塚を崩すのを止め、石を元の場所に戻すことにしたという。

すると不思議なことに、おろすときにはあれほど苦労した大石が、戻すときにはいとも簡単に元の場に納まったという。

その後は狐も姿を消し、平穏な日々が戻ったという。

安部氏館跡の案内板まで戻る。ここから先は旧国道が鎌倉街道だ。150メートルほど進み、小さな堀を渡った左手にあるのが阿保神社である。

### 【阿保神社】

阿保神社は奈良時代、伊賀国（三重県）阿保村出身の阿保朝臣人上が武蔵介に任ぜられ、当地に赴いた際に創建したとされている。その後治承4年（1180年）安部実光が社殿を造営した。

古くは六所明神と称していたが、明治43年阿保神社と改称されている。



鳥居を入ると大きな欅のご神木がある。



拝殿の後ろに本殿があるが、覆屋で覆われている。中を見せてもらおうと、長年の風雨で色は剥げ落ちているが、精緻な彫刻が施されていた。



本殿の右側には阿夫利神社、さらに右奥には境内社がずらっと並んでいる。

この先 600 メートルほど行くと神流川の堤防となるが、鎌倉街道は河川敷の中を北西方向に横切り、群馬県側に入って行く。

さらに、藤武橋の先、藤岡市小林で本庄方面から来る中山道の脇往還藤岡道と合流（「藤岡道の再発見」参照。）し、上野、信濃方面に向かっていった。

# 番外編 上武鉄道廃線敷と金鑽神社・大光普照寺

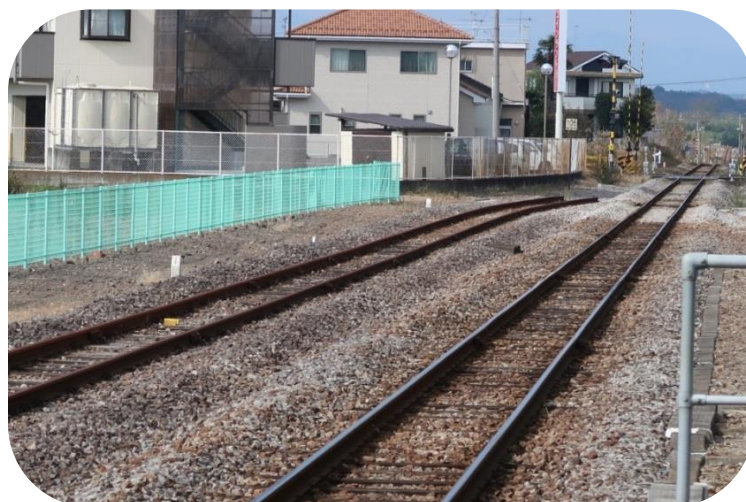


さて、鎌倉街道の旅を終える前に、少し寄り道して神川町を再発見。  
八高線丹荘駅をめざす。「たんしょう」の駅名は、安保氏すなわち丹党の  
荘園に由来するものであろう。

## 【丹荘駅】

---

この丹荘駅、2番線のホームとそこに渡るための跨線橋はあるものの、線  
路が本線と繋がっていないため、列車の侵入はできず、跨線橋も閉鎖されて  
いる。



さらに、2番線の先には、地元の人が「日丹線」と呼んでいた「上武鉄道」  
のホームがあった。

## 【廃線敷やホームが残る～旧上武鉄道（日丹線）】

この鉄道は昭和 16 年(1941 年)渡瀬にあった日本ニッケル(西武化学、朝日工業と変遷)から丹荘駅まで、資材や製造品を運搬するために開通したもので、昭和 22 年からは旅客も扱った。当時は上下 12 本運行していたという。

昭和 37 年に上武鉄道となったが、その後、自動車の普及によって利用者が激減し、昭和 61 年廃線となった。

丹荘駅～西武化学前駅間 6.1 キロメートルの廃線敷は、丹荘駅を出てしばらくの間は車道だが、大部分が遊歩道として残されている。



神川中学校前駅と寄島駅のホームは今も保存されており、当時の面影を偲ぶことができる。



やがて、遊歩道は終着駅があった朝日工業の少し手前で行き止まりとなってしまう。ここからは、県道に出て新宿の交差点に向かう。

## 【武蔵二ノ宮 金鑽神社】

交差点を左折し、国道 462 号を山に向かって進む。かなり急勾配の坂を上りきった右側に大きな石の鳥居が見える。武蔵二ノ宮金鑽神社だ。

金鑽神社は、日本武尊が東征の際に創建したと伝えられ、武蔵二ノ宮に位置づけられている。

二ノ宮とは、武蔵国の2番目の神社という意味で、大宮氷川神社が一ノ宮を称している。

中世以降は児玉党の氏神として信仰され、児玉党の勢力分布に合わせ、女堀川（金鑽川の下流）流域には 11 社の金鑽神社が祀られている。



鳥居の先、緩やかな坂道をしばらく進むと、右側の山肌の一段高いところに国指定重要文化財の多宝塔がある。



三間四方、高さ約 13.8 メートルで柿葺き、安保氏の安保弾正全隆が天文3年（1534年）に建立したものだ。重厚感があり、歴史を感じさせる。

社務所の先、拝殿の手前に橋がある。ここから先はいよいよ神域だと思わせる雰囲気のある橋だ。

この橋は義家橋といわれ、源頼義、義家親子が前九年の役に出陣する途中この地で戦勝祈願し、橋を架けたといわれている。





橋の先、右手の石段を上ったところに拝殿がある。金鑽神社は、本殿がなく山そのものを御神体とする祭祀形態で、同様の形態をとどめている神社は長野県の諏訪神社、奈良県の大神神社と合わせて三社しかない。



参拝者は拝殿から中門越しに御室ヶ嶽を拝むことになる。

宮司の金鑽俊樹さんにお話を伺った。

「官幣中社だったことから、昔は年三回県知事の公式参拝があった。そのため児玉から神社に至る道も比較的早く整備された」そうである。

隣接の大光普照寺との関係については、「日光東照宮と輪王寺との関係と同じで、神仏分離令が出た後には、両者を分けるために間に道路ができた。」という。今やその道路が国道となっている。

拝殿の左手には御嶽山に続くハイキングコースがあるが、コースの途中、神社から15分くらい上ったところに国指定特別天然記念物「鏡岩」がある。



約1億年前の断層活動によって表面が鏡のように磨かれていることから鏡岩と呼ばれている。

その昔、高崎城が落城した時、炎に包まれた城の様子がこの岩に映ったという伝説も伝えられている。

神社の大鳥居を出るとすぐ先に大光普照寺がある。

## 【大光普照寺（金鑽大師・元三大師）】

大光普照寺は、聖徳太子の創建と伝えられている。

第18代天台座主良源がこの寺に自作の像を安置し、彼の命日が1月3日で没後元三大師と呼ばれたことから、その名で知られるようになった。



元三大師は厄除大師といわれ、良源が厄除けに姿を変えたと伝えられる「角大師、豆（魔滅）大師」の絵札を戸口に貼ると災難が除けられるといわれている。

命日が縁起となった1月3日は、初大師として縁起物のだるま市が開かれ、境内は多くの参拝客で賑わいを見せる。



裏山には見晴台があって、特に春、境内が桜とつつじに彩られる時期の眺めは素晴らしい。



春は山門も桜に覆われる

再発見シリーズ第3弾  
児玉を巡る 鎌倉街道の再発見 美里町～本庄市児玉町～神川町

---

- 取材・執筆 石川 勉 石坂 健
- 挿絵 風間由香梨

埼玉県北部地域振興センター本庄事務所  
〒367-0026  
埼玉県本庄市朝日町 1-4-6  
TEL 0495-24-1110

---

2018年1月発行

※本書で使用している地図（2頁、3頁、20頁、39頁、51頁）は、国土  
地理院発行の電子地形図（タイル）を複製したものです。



本庄市児玉町にある高札場



埼玉県マスコット「コバトン」&「さいたまっち」